

ラッキョウ (ユリ科)

ユリ科の野菜や花き類との連作を避ける。浅植えでは分球が多く小球となり、深植えでは分球が少なく大球となる。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年掘り栽培							収穫			定植			
2年掘り栽培	1年目												
	2年目												

1) 適地

乾燥に強く、吸肥力が強いので、畑や庭の隅などやせ地でも栽培できます。土質は特に選びませんが、歯切れの良いラッキョウを作るには、砂地が適しています。

2) 品種

主に栽培されている品種は、在来種のラクダ（大玉）、ラクダから選抜された九頭竜（小玉）、他にハツ房（小玉）があります。

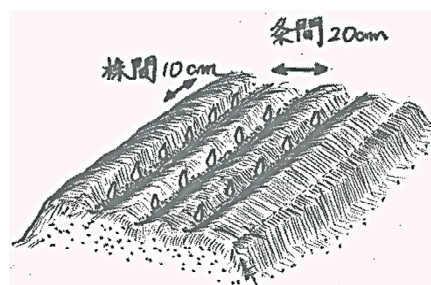
3) 作り方

【圃場の準備】定植の1か月前に、1m²当たり苦土石灰100g、苦土重焼リン30gを施用して耕耘します。定植直前に110cmの畝を立てます。

【定植】8月下旬～9月上旬に大きめの種球を選び、条間20cm、株間10cmの3条となるよう、1か所に1球ずつ定植します。植え溝を掘って、種球を上向きに並べ、6～7cm覆土します。覆土後は、土壌処理除草剤を散布します。

【中耕・追肥】1年掘り栽培では、9月下旬、10月下旬、3月上旬および4月上旬にそれぞれ高度化成肥料を1m²当たり30g株間に施用し、軽く耕します。3月と4月には株元に土寄せします。2年掘り栽培では、1年目の施肥は9月下旬と3月下旬にそれぞれ高度化成肥料を1m²当たり30g施用します。2年目は、10月中旬、3月上旬、4月上旬および5月上旬にそれぞれ高度化成肥料を1m²当たり30g施用します。

【収穫】1年掘り栽培では1年目の、2年掘り栽培では2年目の6月～7月に葉先が枯れ始めたら株を抜き取り、根と葉を切りとります。来年の種球を残す場合は、根を付けたまま風通しのよいところに保存します。



定植方法



ラッキョウの開花

4) 病虫害防除

土壌害虫としてはネダニや根腐れセンチュウが発生しますので、定植前に農薬を土壌に混合します。地上部の害虫としてはアザミウマ類が、病害としては乾腐病や白色疫病や灰色かび病が発生しますので、適宜防除してください。